

令和2年度 横浜カレッジ 自己評価表

1. 学校の教育目標

- (1)感性の向上
- (2)高度な技術力の習得
- (3)豊かな人間性の涵養
- (4)プレゼンテーション能力の育成

2. 令和2年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

| 項目 | 実施状況 | 評価 |
|----------------------------|--|----|
| 効率的、発展的な学校運営 | <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業の導入に伴い、全学科で教材のデジタル化を実施。教員間の教材共有や学科を越えた教材共有が活発に行われた。今後はオンライン授業の学習成果を高めるための動画コンテンツの開発・拡充が課題。 ・授業スケジュールや定期試験期間などの見直しを行い、教員の業務時間の創出に努めた。創出した時間で、新たな教材開発やオンライン授業の準備を実施した。 | ○ |
| 令和4年度運用開始「令和改編カリキュラム」の研究開発 | <ul style="list-style-type: none"> ・移行期カリキュラムとして学内共通の3科目「クラスアクティビティ」、「サービストレーニング」、「ITリテラシー講座」のカリキュラムを開発。令和3年度より導入予定。 ・本校のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーをベースにカリキュラムの見直しを実施。また、共通科目の新設や授業形態についての研究も実施。令和3年度も継続して研究開発を行う。 | ○ |
| 個性を生かし個々が成長する学習形態へのチャレンジ | <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業の導入に伴い、すでに貸与を行っていたファッション系3学科に加え、美容系2学科・ブライダル科にもノートPCを貸与。全学生が自宅でもPCを活用できる体制を整えた。 ・オンライン授業の導入により、オンラインを活用した反復学習を効率的に実施。資格試験の合格率が上がるなどの成果を得た。 ・コロナ禍の中で、学生の安全確保のため、多くの学校行事や産学連携プロジェクトの開催を見送った。例年と比較して「実体験」をする機会が減ってしまった。次年度は、コロナ禍の中でも、多くの「実体験」が経験できる機会を提供することが課題。 ・SDGs等をテーマに活動するサークルを令和2年度に設立。学生が主体的に活動できる環境が整いつつある。 | △ |

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|--|-------------------------------|
| ・ 理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) | 4 3 2 1 |
| ・ 学校における職業教育の特色は明確か | 4 3 2 1 |
| ・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 4 3 2 1 |
| ・ 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に 周知されているか | 4 3 2 1 |
| ・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか | 4 3 2 1 |

① 課題

コロナ禍を契機として、ファッション・美容・ブライダルの各業界のIT化が急速に進んでいる。また、SDGsへの対応など、産業構造が大きな転換点を迎えており、就職後も時代や産業動向の変化に柔軟に対応できる、発想力豊かな人財の育成が課題。

② 今後の改善方策

本学園グループ姉妹校を横断したプロジェクト活動に本校教職員も参画。次代に向けた教育内容、環境の整備を本学園グループ一体で進める。

③ 特記事項

(2). 学校運営

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|--|-------------------------------|
| ・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか | 4 3 2 1 |
| ・ 事業計画に沿った運営方針が策定されているか | 4 3 2 1 |
| ・ 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか | 4 3 2 1 |
| ・ 人事、給与に関する制度は整備されているか | 4 3 2 1 |
| ・ 教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか | 4 3 2 1 |
| ・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 4 3 2 1 |
| ・ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか | 4 3 2 1 |
| ・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 4 3 2 1 |

① 課題

令和2年度に、オンライン授業に対応した新教育システムの導入が本学園グループ姉妹校とともに決定。教育効果をあげるため、具体的な活用方法を検討し授業に導入することが課題。

② 今後の改善方策

本学園グループ姉妹校を横断したプロジェクトで検証を進め、本校の教育効果を高める仕組みを検討する。

③ 特記事項

(3). 教育活動

a. ファッションライフデザイン学科

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|--|-------------------------------|
| ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 4 3 2 1 |
| ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。 | 4 3 2 1 |
| ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4 3 2 1 |
| ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 | 4 3 2 1 |
| ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 4 3 2 1 |
| ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | 4 3 2 1 |
| ・授業評価の実施・評価体制はあるか | 4 3 2 1 |
| ・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 3 2 1 |
| ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか | 4 3 2 1 |
| ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 4 3 2 1 |
| ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 4 3 2 1 |
| ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか | 4 3 2 1 |
| ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 4 3 2 1 |
| ・職員の能力開発のための研修等が行われているか | 4 3 2 1 |

① 課題

企業連携、グループワークによる実践的教育を通して学生の成長と就職、将来のキャリアアップへとつながる教育カリキュラムの構築を進めていきたい。リアルとデジタルの融合が進む業界の急速な変化に合わせ、新たな技術、知識を習得させる授業内容の構築がさらに必要となっている。

② 今後の改善方策

英語、就職試験対策 SPI 教育に於いて、学園全体で導入するデジタル学習教材すらネットを活用。また、業界で主流となっていくデジタルデザインシステム SDS-ONE APEX の学習強化対策として eラーニングシステムとアパレル3D 設計の導入を検討していく。

③ 特記事項

「第 17 回ビジネスコンペティション」へ 3 年連続でエントリー。昨年に続き「準グランプリ」を受賞。その他のチームも「マーケティング賞」・「アイデア賞」を受賞し成果を出すことができた。またこの結果は、学生の自信と達成感の獲得につながるため、次年度も参加を継続していきたい。
サステナブルファッション、SDGs 教育は継続して行っている。

b. ファッションビジネス科

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|--|-------------------------------|
| ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 4 3 2 1 |
| ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。 | 4 3 2 1 |
| ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4 3 2 1 |
| ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 | 4 3 2 1 |
| ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 4 3 2 1 |
| ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | 4 3 2 1 |
| ・授業評価の実施・評価体制はあるか | 4 3 2 1 |
| ・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 3 2 1 |
| ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか | 4 3 2 1 |
| ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 4 3 2 1 |
| ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 4 3 2 1 |
| ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか | 4 3 2 1 |
| ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 4 3 2 1 |
| ・職員の能力開発のための研修等が行われているか | 4 3 2 1 |

① 課題

アパレル業界の IT 化や DX、就職ニーズの変化を踏まえ、ファッションテック、E コマース分野の人財育成強化に向けた、デジタル接客、バーチャルサンプル作成等の教育カリキュラムの導入が急務。

② 今後の改善方策

業界のデジタル化、IT化に合わせたトータルな学びとなるよう、学科カリキュラム全体を改善。オンラインショップの企画・運営を通して、複数の授業で学んだことを実践、体感させるプログラムを導入。

③ 特記事項

本学園グループの用務員ユニフォームのリニューアル提案を行い、採択される。採択されたユニフォームは、令和3年8月頃から着用予定。

c. ブライダル科

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|--|-------------------------------|
| ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | ④ 3 2 1 |
| ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。 | ④ 3 2 1 |
| ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | ④ 3 2 1 |
| ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 | ④ 3 2 1 |
| ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | ④ 3 2 1 |
| ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | ④ 3 2 1 |
| ・授業評価の実施・評価体制はあるか | ④ 3 2 1 |
| ・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 ③ 2 1 |
| ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか | ④ 3 2 1 |
| ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | ④ 3 2 1 |
| ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | ④ 3 2 1 |
| ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか | 4 ③ 2 1 |
| ・関連分野における先進的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | ④ 3 2 1 |
| ・職員の能力開発のための研修等が行われているか | 4 ③ 2 1 |

① 課題

新型コロナの感染防止のため、学科の主軸カリキュラムであるイベント制作の中止を余儀なくされた。次年度に向け、イベントのあり方の見直しを行うとともに、ハイブリット型授業の効率化を図りたい。

② 今後の改善方策

オンライン・対面の授業形態によらず、学生が主体的に授業に参加できる環境整備を行う。また、限られた時間内で目的を遂行するため、オンライン上でのグループワークの運営方法を工夫し、学生の経験値を上げるとともに、授業の効率化につなげる。

③ 特記事項

令和2年度より、ブライダルコーディネーター技能検定3級を1年次に取得するプログラムを導入。
2年次で同検定2級を目指せる体制を整えた。

d. ジュエリー&アクセサリー科

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|--|-------------------------------|
| ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 4 3 2 1 |
| ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。 | 4 3 2 1 |
| ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4 3 2 1 |
| ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 | 4 3 2 1 |
| ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 4 3 2 1 |
| ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | 4 3 2 1 |
| ・授業評価の実施・評価体制はあるか | 4 3 2 1 |
| ・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 3 2 1 |
| ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか | 4 3 2 1 |
| ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 4 3 2 1 |
| ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 4 3 2 1 |
| ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか | 4 3 2 1 |
| ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 4 3 2 1 |
| ・職員の能力開発のための研修等が行われているか | 4 3 2 1 |

① 課題

ジュエリー&アクセサリー業界への就職に直結するインターンシップや産学連携の提携先が不足。
教員のオンライン授業対応力の向上、デジタル化に伴う知識技能の強化が必要。

② 今後の改善方策

インターンシップ・産学連携先を新規に開拓。また、業界のオンライン化に合わせた教育を強化。

③ 特記事項

平成29年度～令和2年度まで横浜高島屋との連携を継続。店頭展開ジュエリーブランド指導の下、学生オリジナル作品の商品化と同時に、店頭での接客販売も経験することができ、作品制作技術向上や顧客ニーズ、マーケットを理解できる貴重な体験を得る機会の継続ができた。

e. ビューティーコーディネート科

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|--|-------------------------------|
| ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | ④ 3 2 1 |
| ・教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。 | 4 ③ 2 1 |
| ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | ④ 3 2 1 |
| ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 | 4 ③ 2 1 |
| ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 4 ③ 2 1 |
| ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | 4 ③ 2 1 |
| ・授業評価の実施・評価体制はあるか | ④ 3 2 1 |
| ・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか | ④ 3 2 1 |
| ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか | ④ 3 2 1 |
| ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | ④ 3 2 1 |
| ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | ④ 3 2 1 |
| ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか | 4 ③ 2 1 |
| ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 4 ③ 2 1 |
| ・職員の能力開発のための研修等が行われているか | 4 ③ 2 1 |

① 課題

新型コロナウイルス感染防止をきっかけに、全学生へのノート PC 貸与を実施して、座学・実習ともにオンライン授業ができる体制を整えた。実習授業では、マイクロラーニングを取り入れ、技術工程ごとにわかりやすく学べる仕組み作りが課題。また、コロナ禍で急速に変化する企業活動に対応した教育内容の見直しも課題。

② 今後の改善方策

次年度は、令和2年度作成のデジタル教材を再構築し、柔軟かつ効率的な学習が実施できる環境を整え、検定合格率向上や技術習熟につなげていく。

③ 特記事項

f. ビューティースタylist科

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|--|-------------------------------|
| ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | ④ 3 2 1 |
| ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。 | ④ 3 2 1 |
| ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | ④ 3 2 1 |
| ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 | 4 ③ 2 1 |
| ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | ④ 3 2 1 |
| ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | ④ 3 2 1 |
| ・授業評価の実施・評価体制はあるか | ④ 3 2 1 |
| ・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか | ④ 3 2 1 |
| ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか | ④ 3 2 1 |
| ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | ④ 3 2 1 |
| ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | ④ 3 2 1 |
| ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか | 4 ③ 2 1 |
| ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 4 ③ 2 1 |
| ・職員の能力開発のための研修等が行われているか | 4 ③ 2 1 |

① 課題

在籍数増加に伴い、今まで以上に個々が持っている資質も多様化している。それぞれの能力に合った教育を、決められたカリキュラムの枠内でどう提供していくかが課題である。

② 今後の改善方策

IT ツールを活用した学習サポートシステムの構築。学習データを活用し、授業に反映することで効率的な指導を可能にしていく。

③ 特記事項

令和元年度のユニバーサルマナー検定の導入をきっかけに、多様化する社会と美容のかかわりを学ぶ機会を増やしている。令和2年度は、1年生が、美容サロン研究の一環で、ユニバーサルマナーに対応したサロンについてリサーチを行い、岩崎学園教育成果発表会で報告。ヘッドネーションの取り組みも継続実施した。

(4). 教育環境

a. ファッションライフデザイン学科

| 評価項 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|---|-------------------------------|
| ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 4 ③ 2 1 |
| ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 4 ③ 2 1 |

① 課題

設備の配置、演習用教室の整備は年々改善方向にある。引き続き経年劣化による一部機材更新は必要。学生のインターンシップ参加への意欲は増加傾向にある。コロナ禍で中断しているインターンシップが多いため、受け入れ先企業に再度、協力依頼を行っていく必要がある。

② 今後の改善方策

インターンシップが作業サポート中心からプロジェクト参画型へと変化。就職活動にも大きく影響するため、今後も学生に実践的な学びを提供できる新規連携先を開拓。

③ 特記事項

コロナ禍で企業と連携がとりにくい環境の中、地元の近澤レースから課題提供されたエコバックのデザインは、4点が商品化され、マーケットを考えたデザインを学ぶまたとない機会となった。販売数や購入客の声を共有していただき、学生の次なるデザインや制作につながっている。

b. ファッションビジネス科

| 評価項 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|---|-------------------------------|
| ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 4 3 ② 1 |
| ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 4 ③ 2 1 |

① 課題

学生が余裕をもって実習を行えるスペースの確保が課題。また、業界の変化に合わせ、新たなインターンシップ提携先を整備する必要がある。

② 今後の改善方策

オンライン授業との併用など時間割を工夫し、余裕をもって実習が行えるスペースの確保を行う。アパレル業界内の就職先分野職種の幅を広げるため、Eコマース、デジタル接客などのインターンシップ提携先を新規開拓する。

③ 特記事項

c. ブライダル科

| 評価項 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|---|-------------------------------|
| ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 4 (3) 2 1 |
| ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | (4) 3 2 1 |

① 課題

実習授業での作業スペース確保、設備導入の見直し。

② 今後の改善方策

使用教室の整備強化、受講人数を調整しスペースの確保を行う。設備管理、メンテナンスの強化を図る。

③ 特記事項

コロナ禍の影響により、インターンシップ先でのシフト削減が見られた。就職先や卒業生ネットワークを活かし、新たなインターンシップ先を確保する。
令和2年度より、本学科の全学年、すべての学生にノートPCが貸与された。

d. ジュエリー&アクセサリー科

| 評価項 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|---|-------------------------------|
| ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 4 (3) 2 1 |
| ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 4 (3) 2 1 |

① 課題

インターンシップ(単位認定)に対応した教育体制の整備と、新規インターンシップ先の開拓。

② 今後の改善方策

業界関連企業及び業界団体に対し、新規インターンシップの開拓と確保を図る。

③ 特記事項

e. ビューティーコーディネーター科

| 評価項 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|---|-------------------------------|
| ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 4 (3) 2 1 |
| ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 4 3 (2) 1 |

① 課題

新型コロナウイルス感染状況を鑑み、1年次に実施している全員参加型インターンシップは中止とした。実習教室の空調整備や学生の健康面を考慮した、衛生・環境美化の工夫が必要。

② 今後の改善方策

新型コロナウイルス感染状況が改善した際は、インターンシップを再開予定。また、社会情勢の変化による、受け入れ企業との日程調整や期間の再検討を行う。

③ 特記事項

令和2年度より、本学科の全学年、すべての学生にノートPCが貸与された。

f. ビューティースタylist科

| 評価項 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|---|-------------------------------|
| ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 4 (3) 2 1 |
| ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 4 3 (2) 1 |

① 課題

クラス数増加に伴い、教室の効率的な運用が課題。科目によっては使用教室が限定されることもあり、教室間移動や実習準備に時間がかかることも課題である。特に令和2年度は、コロナ禍で外部設備を使用できないことも影響した。

② 今後の改善方策

可動可能な実習設備の導入。オンライン授業の活用。昨年に引き続き、年間スケジュールや授業時間割の工夫。

③ 特記事項

令和2年3月に実習教室をリニューアルし、シャンプー台を全て一新。最新のシャンプー設備も導入することで、より実践的な実習授業が展開できるよう整えた。
また、令和2年度より、本学科の全学年、すべての学生にノートPCが貸与された。

(5). 学修成果

a. ファッションライフデザイン学科

| 評価項 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|--|-------------------------------|
| ・ 就職率の向上が図られているか | 4 (3) 2 1 |
| ・ 資格取得率の向上が図られているか | 4 (3) 2 1 |
| ・ 退学率の低減が図られているか | 4 (3) 2 1 |
| ・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 4 (3) 2 1 |
| ・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。 | (4) 3 2 1 |

① 課題

アパレル業界でのデジタル化が加速する中、「EC」「SNS」「ライブコマース」の運用、「デジタルマーケティング」「3Dモデリング」に関する人財は、コロナ禍においてさらに企業の採用意欲が高く、求人の動きは活発化しているが、その分野への就職が未開拓である。

② 今後の改善方策

積極的に職種の幅を広げた就職活動を支援。学生の関心が高まっているサステナビリティ、SDGsの実践的な学びの場を企業との連携により提供し、就職企業の選択肢へと意識がつながるよう導きたい。

③ 特記事項

ファッション業界においてアパレル3Dモデリングの普及が進む中、学生の技術習得の為にソフトの導入と、特別講義、授業等での展開を検討。

b. ファッションビジネス科

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|--|-------------------------------|
| ・ 就職率の向上が図られているか | 4 3 (2) 1 |
| ・ 資格取得率の向上が図られているか | 4 (3) 2 1 |
| ・ 退学率の低減が図られているか | 4 (3) 2 1 |
| ・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | (4) 3 2 1 |
| ・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。 | (4) 3 2 1 |

① 課題

コロナ禍の影響で、求人数が減っている総合職、販売員の就職先の確保に加え、学生の就職へのモチベーションを上げるための方策が急務。

② 今後の改善方策

学生、教職員間のコミュニケーションとして、オンラインツールを有効活用し、一人ひとりの就職活動を支援。また、退学率低減のため、早期に教員間での情報共有、保護者連絡の徹底を図る。

③ 特記事項

c. ブライダル科

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|---|-------------------------------|
| ・就職率の向上が図られているか | ④ 3 2 1 |
| ・資格取得率の向上が図られているか | ④ 3 2 1 |
| ・退学率の低減が図られているか | 4 ③ 2 1 |
| ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | ④ 3 2 1 |
| ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。 | ④ 3 2 1 |

① 課題

就職活動において、コロナ禍の影響により例年以上に厳しい状況であった。事前対策を強化していたが、選考スケジュールが非常に早く、十分に対策できない場面もあった。

② 今後の改善方策

1年生の授業内で、就職活動における自己分析などのワーク講座を定期的に導入。早い時期から基礎知識の理解を深め、就職活動本番で活かせるよう経験値の底上げを図る。

③ 特記事項

ブライダルコーディネーター技能検定3級の合格率は90.3%(全国合格率67.0%)と、大きな成果を残すことができた。また、サービス接客検定準1級の合格率も77.6%となり、公益社団法人実務技能検定協会から団体優秀賞並びに個人最優秀賞の表彰を受けた。

d. ジュエリー&アクセサリー科

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|---|-------------------------------|
| ・就職率の向上が図られているか | 4 3 2 1 |
| ・資格取得率の向上が図られているか | 4 3 2 1 |
| ・退学率の低減が図られているか | 4 3 2 1 |
| ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 4 3 2 1 |
| ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。 | 4 3 2 1 |

① 課題

厳しい求人状況の中、就職活動において消極的な学生が多い。業界全体や職種についての理解を深めることで、ファッション関連のアクセサリーブランドなど、就職先に対する視野を広げる方策が必要。

② 今後の改善方策

インターンシップや企業連携の機会を増やし、現場で活躍する業界関係者との直接的な関わりから、職業観の育成につなげる。

③ 特記事項

e. ビューティーコーディネート科

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|---|-------------------------------|
| ・就職率の向上が図られているか | 4 3 2 1 |
| ・資格取得率の向上が図られているか | 4 3 2 1 |
| ・退学率の低減が図られているか | 4 3 2 1 |
| ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 4 3 2 1 |
| ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。 | 4 3 2 1 |

① 課題

新型コロナウイルスの影響により、採用中止や採用人数縮小となる企業の増加による希望職種への内定率が低下。

② 今後の改善方策

現在、採用に厳しい美容部員とネイリストに関しては、就職指導部との連携を強化し、大手企業に拘らず化粧品専門店など新規就職先の開拓を目指す。
また、デジタル接客技法等、IT 活用力の強化による学生のスキルアップを図る。

③ 特記事項

f. ビューティースタylist科

| 評価項 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|--|-------------------------------|
| ・ 就職率の向上が図られているか | 4 (3) 2 1 |
| ・ 資格取得率の向上が図られているか | 4 (3) 2 1 |
| ・ 退学率の低減が図られているか | 4 (3) 2 1 |
| ・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 4 (3) 2 1 |
| ・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。 | 4 (3) 2 1 |

① 課題

コロナ禍で登校の機会が減ったため、挨拶、返事、立ち居振る舞いなど、接客業を行う上で必須であるマナーに関する知識や意識の低さが目立つようになってきた。

② 今後の改善方策

一般常識やビジネスマナーは、職場でのコミュニケーションを取る上で重要でもあるため、社会人として必要とされる能力を身に付けるべく、導入教育や就職指導内容を見直し、より良い人財の輩出と早期離職防止につなげていきたい。

③ 特記事項

令和2年度は、コロナの影響により、導入教育やコミュニケーション講座をオンラインにて実施。対面で出来なかったことも影響していると感じている。
今年度導入のヘアケアマイスター試験プライマリーコースの合格率は79.1%。受験者は1・2年生合わせて67名。初年度としては実績が出せたと考えている。

(6). 学生支援

| 評価項 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|---|-------------------------------|
| ・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか | ④ 3 2 1 |
| ・ 学生相談に関する体制は整備されているか | ④ 3 2 1 |
| ・ 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか | ④ 3 2 1 |
| ・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | ④ 3 2 1 |
| ・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか | ④ 3 2 1 |
| ・ 学生の生活環境への支援は行われているか | ④ 3 2 1 |
| ・ 保護者と適切に連携しているか | ④ 3 2 1 |
| ・ 卒業生への支援体制はあるか | 4 3 ② 1 |
| ・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 4 3 ② 1 |
| ・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | ④ 3 2 1 |
| ・ 防災に対する体制は整備されているか | ④ 3 2 1 |

① 課題

令和2年度より「高等教育の修学支援新制度」の対象機関として認定を受け、学費支援策の枠を広げた。本人・保護者との手続き上のやり取りに時間がかかるケースも見受けられ、利用希望者と円滑に手続きを進めていくことが課題。

② 今後の改善方策

コロナ禍の環境も踏まえ、小グループで、制度や手続きの説明会を開催し、きめ細やかに利用希望者との情報共有を行い、手続きを円滑に進めていく。

③ 特記事項

オンライン授業化に伴う家庭での負担軽減のため、「通信環境支援金」として全学生に1万円を支給。また、令和2年度卒業生を対象とした「就職支援制度」や同ビューティースタylist科卒業生対象の「資格支援制度」など、卒業後の就職活動や資格取得支援を目的とした制度を創設した。
令和2年度に予定していた高校生向けキャリア講座(仕事のまなび場、総専協夏季講座、県立高校生活学習コンソーシアムとの連携職業講座)については、コロナ禍の影響で中止。

(7). 学生の受入れ募集

| 評価項 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|-------------------------------|-------------------------------|
| ・ 学生募集活動は、適正に行われているか | ④ 3 2 1 |
| ・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | ④ 3 2 1 |
| ・ 学納金は妥当なものとなっているか | ④ 3 2 1 |

① 課題

コロナ禍の中、対面形式の進路活動の機会が減り、職業や学校の学び方への理解不足が生じる可能性があるため、イベント実施内容や定期的に発信する情報に理解を促すための工夫が必要。

② 今後の改善方策

職業理解や学校の学び方理解を深めるため、日々の授業の様子や学生の学習成果を伝える動画コンテンツを拡充する。

③ 特記事項

令和2年度生より、入学定員数を160名としたビューティースタylist科の令和3年度生入学希望者の出願数は162名。入学者数は157名となりほぼ定員を充足した。

(8). 財務

| 評価項目 | 適切:4、ほぼ適切:3 準備中・整備中:2、未着手・未整備:1 |
|----------------------------|------------------------------------|
| ・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | ④ 3 2 1 |
| ・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | ④ 3 2 1 |
| ・ 財務について会計監査が適正に行われているか | ④ 3 2 1 |
| ・ 財務情報公開の体制整備はできているか | ④ 3 2 1 |

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

③ 特記事項

財務状況は、安定しており、継続的な学校運営には問題がない状況である。

(9). 法令等の遵守

| 評価項 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|---------------------------------|-------------------------------|
| ・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | ④ 3 2 1 |
| ・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | ④ 3 2 1 |
| ・ 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか | 4 ③ 2 1 |
| ・ 自己評価結果を公開しているか | ④ 3 2 1 |

① 課題

平成 25 年度より、自己評価を実施し、学校関係者評価委員会等で意見を聴取し改善には努めているが、校舎・設備・環境に関わる課題や、学生の経済支援については制約もあり、年度内や本校のみの施策では解決しにくいものがある。

② 今後の改善方策

校舎の環境整備については、令和 2 年度より、3 か年計画で充実を図る。

③ 特記事項

自己評価、学校関係者評価委員会の議事録は、ホームページ上で公開している。

(10). 社会貢献・地域貢献

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 |
|---|-------------------------------|
| ・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | ④ 3 2 1 |
| ・ 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか | 4 ③ 2 1 |
| ・ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか | ④ 3 2 1 |

① 課題

過年度に実施した地域連携プロジェクトなどが、授業内で継続的に取り組めるようになったものの、コロナの影響もあり、社会貢献や地域貢献の活動そのものが中止となってしまう、活動の機会が減少した。多くの学生が安全・安心に活動できるような企画・立案が必要。

② 今後の改善方策

昨年度立ち上げた SDGs 等をテーマに活動するサークルについて、令和 3 年度は活動費補助がある運営形態に変更し、活動の幅を広げていく。また、コロナの状況を見極めながら、過去に実施した横浜実践看護専門学校と連携したヘッドネーションへの協力、地元プロリーグとの活動など、地域イベントの協力を積極的に行っていく。

③ 特記事項

自己評価、学校関係者評価委員会の議事録は、ホームページ上で公開している。

以 上